単元の言語活動２　　［　　年　　組　　番　名前　　］

◆作家の工夫を意識して文章を書く

――文学が伝えているのは、ストーリーだけではない――

課題　他人からの働きかけが、うれしい場合、あるいは違和感がある場合を思い浮かべて、文章を書いてみよう。自分で書いてみることで、作家の書き方の工夫を実感してみよう。

1『待つ』を振り返り、一人称の語りの特徴を考えてみよう。「私」は、周囲とは異なる考え方を持っている。それを表す際に、一人称だとどういう点が効果的か。

2『うそとパン』を振り返り、『待つ』の一人称との違いを考えてみよう。

①「　」内の伸子さんの言葉の意図を「私」が推測している部分、捉え損ねている部分を抜き出してみる。これは、一人称の視点がどのようなものだからだろうか。

②①は、⑦過去の事件当時の「私」の考え方、⑦当時を解説できる大人になった「私」の意識、どちらを優先していることによるか、また、そのことの効果は何か。

①	
推測している部分、捉え損ねている部分	一人称の視点について考えたこと

②
●優先しているもの ●効果

3 『写真班』を、漫画にするとしたら、または、コントとして演じるとしたら、どんなものになるだろうか。それを通して、『写真班』のおもしろさはどこにあるか、また、三人称を採用しているのはなぜか、考えてみよう。

●漫画（コント）

●おもしろさ

●三人称を採用している理由

4 課題にあるとおり、文章のテーマを構想してみよう。自分の体験でなくても、見聞きしたエピソードや、想像でも構わない。それは、読者にストレートに伝えてよい事柄か、遠回しにするべき事柄か考えたうえで、1～3のどれかを意識して実際に文章にしてみよう。出来上がったものについて、グループを作り、互いに感想を述べ合ってみよう。

●自由にメモしよう